

新型コロナウイルスは空気感染するのか？

今年の1月16日、日本で最初の新型コロナウイルス感染者が確認されてから、8カ月が過ぎていますが、未だに県内では毎日2桁の感染者が報告されています。緊急事態宣言が4月7日に発せられ、5月25日に解除されました。これに伴い、県立学校では6月より段階的な再開がなされ、本校も7月13日より時差通学による「通常登校」になり、現在に至っています。

ウイズコロナのなかで経済活動や教育活動等が再開されましたが、未だ新型コロナウイルス感染の収まる気配はありません。5月下旬に北九州の小学校でクラスター(感染者集団)が発生し、再開したばかりの学校が直ちに休校に追い込まれました。現在の感染者の感染経路は、経路不明を除けば病院、福祉施設、家庭、職場、会食、学校などとなっており、当初の「夜の繁華街」という感染経路は減ってきています。感染経路から追跡して新型コロナウイルスを封じ込める対策は、もう限界がきていることを意味します。

感染防止には、やはり三密を避け、手洗いや換気をこまめにし、マスクを着用することが大切です。しかし、マスクを着用していたにもかかわらず感染したり、外でスポーツしていたにもかかわらず感染するケースも見られます。当初、新型コロナウイルスは空気感染しないとされていました。しかし最近では、新型コロナウイルスは空気感染するのではないかとされています。

7月9日、世界各国の研究者が連名で新型コロナウイルスが空気感染するとの書簡を発表し、WHO(世界保健機関)に感染対策を見直すように求め、新型コロナウイルスに関する新たなガイドラインを取りまとめました。そのガイドラインによると混雑し換気の不十分な場所で新型コロナウイルスが空気感染することは無視できないとしています。

新型コロナウイルスの感染は、当初、飛沫感染、接触感染の二つと言われていました。飛沫感染は、感染者のくしゃみ、咳、つばといった飛沫と一緒にコロナウイルスが放出され、他人がそのコロナウイルスを口や鼻から吸い込んで感染することを言います。接触感染は、感染者が咳やくしゃみなどを押さえた手で物に触れてコロナウイルスが付くことで起こります。それに触れた他人の手にウイルスが付き、目や口などを触ることにより感染することを言います。これに対して空気感染は、感染者が飛ばした飛沫核(エアロゾル)を吸い込むことで感染します。人が呼吸、咳、くしゃみ、会話をしたとき、口や鼻から微粒子が出ていきます。その時、飛沫とエアロゾルは同時に同じ空間に存在することになります。しかし、エアロゾルの方が飛沫より軽いので、遠くまで運ばれたり、空気中に長く存在したりすることができます。

マスクを着用していたのに感染したとか、外でスポーツをしていて感染したというケースは、このエアロゾルで感染した可能性も出ています。エアロゾルは、くしゃみや咳、つばという水分が乾燥し、病原菌だけが空中に浮遊したり、人が動くことによって地上にい

た病原菌が浮遊したりすることで、人がエアロゾルを吸い込むことで感染すると言われます。エアロゾル感染を防ぐには、これまでどおりの手洗いやマスク着用は当然ですが、密閉した空間を作らないこと、密集する場所を設けないこと、大声など発しないこと、などが効果的と考えられています。

5月下旬、北九州の小学校で新型コロナウイルスのクラスター(感染者集団)が発生し、再開したばかりの学校が直ちに休校になりました。これが学校における最初のクラスター感染と言われています。この時、小学校の児童は校内ではマスクを着用していたのですが、下校時にマスクを外して友達と会話していたと言われています。また、高校生で下校時にファミリーレストランで友達と昼食をし、会話したことによって感染したケースもあります。ゆえに、本校では昼食時間や下校時に新型コロナウイルス感染防止の注意喚起のための放送を流しているのです。

文部科学省は9月3日、全国の小中高校と特別支援学校の6月から8月までの間に、1166人の児童・生徒の新型コロナウイルスへの感染が確認されたと発表しました。このうち約7割は8月に確認されたケースであり、子どもたちの感染が増えていることに警戒が必要だと思えます。ただ、学校から地域に感染が大きく広がった事例はないそうです。

感染者1166人のうち、家庭内感染が655人と過半数を占めていますが、校内感染は180人に留まっています。しかし、島根県の高校のように100人を超える大規模クラスターのケースもあり、8月には高校の運動部で5人以上の集団感染が5件も起こっています。ある大学では7月20日に最初の感染者が判明し、その後も感染者の判明があり、9月4日にも感染者が判明するような状況です。

アメリカではトランプ大統領の強い要請に基づき、8月から学校を再開した大学のなかには、構内でクラスター感染が起こり、多くの学生が感染したケースが出ています。アメリカの大学では、学校再開を祝って大規模なパーティーを行ったり、学内でマスク着用などの感染予防が不十分な学生がいて、クラスター感染により感染拡大が起こった大学がいくつもあります。1週間に600人も感染者が確認された大学もあります。大学の感染のなかでは、スーパー・スプレッティング現象(感染者のうち、通常考えられる以上の2次感染を引き起こすことを指す)という状況に陥り、再開後、直ちに閉鎖された大学もあります。

現在、ウイズコロナのなかで生活しなくてはなりません。緊急事態宣言が解除され、営業自粛が解かれ、学校が再開され、少しずつコロナ前に戻りつつあります。だからといって完全に前には戻らないと言われています。

いまでも毎日、感染者が出ており、9月22日現在、日本では累計で約8万人、全世界では3千万人を超す感染者が確認されています。

新型コロナウイルスは目に見えず、家庭、病院、社会福祉施設、学校、職場などからの感染が増え、誰が感染してもおかしくない状況になっています。それだけに感染者や、その家族、医療従事者等に対する偏見や差別は絶対に許されません。

一日も早く新型コロナウイルスの感染を気にしないで生活できる日常になることを祈念しています。